

自分の考えを整理・深化させる活動の工夫

情報を結び付けて思考し、新たな視点から解釈する力を育てる

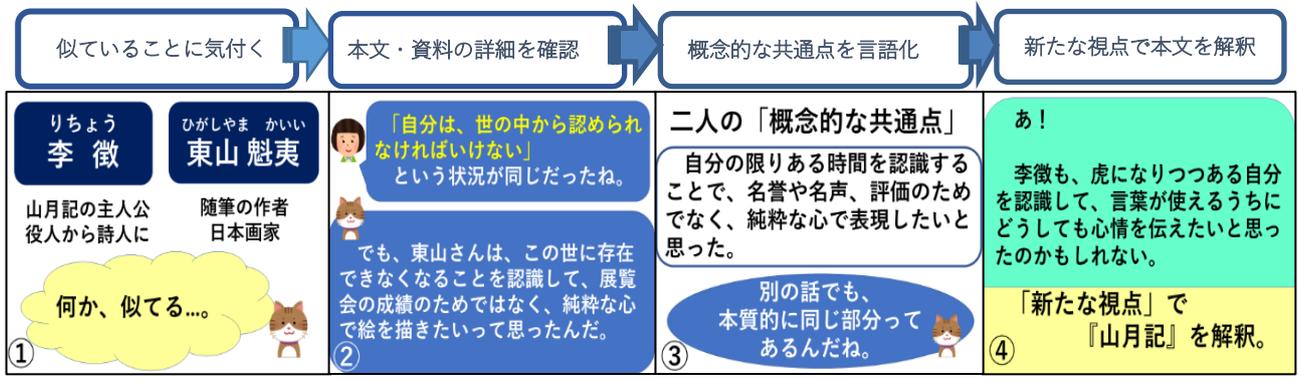
生徒が、文学的教材を本気で読んで考えるような授業にしたい。そして、高校卒業後も読み返し、生涯にわたって考えを深めてほしい。高校時代に色々な情報と結び付けて自分で小説の解釈を深める面白さに気付けば、あらゆる情報(知識)を学ぶことに対しても意欲的になるのではないか。このように考え、資料を活用した実践を行いました。



「段階的な学習」によって、学習効果を高める。

- ・段階1では、生徒が資料の中から必要な情報を探し、本文と結び付けて考えます。(例) 時代背景と本文等。
- ・段階2では、一見、関わりのない文章と本文を結び付けて解釈します。
- ・段階3では、生徒が自分で資料を探します。

- 段階1 基本的な「情報」と本文を結び付けて、本文を理解する。
- 段階2 資料と本文に共通する「概念」に気づき、「新たな視点」から本文の解釈を深める。
- 段階3 「自分たちで探した情報」と本文を結び付けて本文の解釈を深める。



段階2 資料と本文に共通する「概念」に気づき、「新たな視点」から本文の解釈を深める例

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

- 教師が一つの解釈を説明し、生徒がそれを覚える授業ではなく、段階1から、生徒が自分で資料の中の情報と本文を結び付けて解釈することがポイントです。
- 「一つの作品を、こんなに深くまで読んだのは初めてだった」という感想に象徴されるように、生徒は頭をフル回転させ、自分で資料から獲得した新たな視点で、作品を深く解釈できるようになります。